

准組合員を「農業振興の応援団」にしていくために

准組合員読者を「農業振興の応援団」になってもらうためには、以下の5つを「してもらう」ことを、誌面を通じて強調していくことが大切です。

- ① 准組合員とは何かを理解してもらおう
- ② 地元農業を理解してもらおう
- ③ JAの農業応援商品の利用やJA祭りなどのイベントに参加してもらおう

- ④ 産直などを通して、地元産農畜産物を購入してもらおう
- ⑤ 援農ボランティアなど、農業や農家組合員を応援する活動に参加してもらおう

以上5つのパターンを准組合員の理解度や参画度合いを見ながら、ターゲットを明確にした誌面を作り、農業やJAの応援団を育てましょう。

パターン

1 准組合員を意識してもらおう

「JA広報通信」に掲載している、共通コンテンツ(33ページ)は自由に掲載できます。今年度は、正・准組合員をメインターゲットとし、協同組合とは何かを解説しながらJA

の事業や役割を訴求していきます。JA広報誌はもちろん、准組合員や地域住民向けのコミュニティー誌にご活用ください。

知って納得JA
協同組合の力

協同組合の組合員組織って何?

A 目的を同じにする組合員が集まって活動することで、願いを實現するための組織です。

JAには、さまざまな組合員組織があります。住んでいる地域ごとの「集落組織」、トマトやキュウリなど品目ごとに生産者が集う「作目別部会」、農業を担う青年たちで構成する「青年組織(JA青年部)」、くらしを豊かにする「JA女性組織」、年金や共済などのJA事業を利用する組合員の交流を目的とする「事業他別組織」などです。

JAは思いや願い(課題やニーズ)を共有する組合員が集まってつくる協同組合ですが、組合員はそれぞれ性別や年齢などが異なり、思いや願いもさまざまです。そのため、組合員の中で思いや願いが近い人々が集まって組合員組織をつくっています。

組合員組織は、JAの事業と運動の中心的な役割を果たしています。(監修=広島大学 助教 小林元)

主な組合員組織の種類

- 集落ごとの組織** 地域ごとに組織された地域的な組織です。農家組合や農業実行組合等、さまざまな名称で呼ばれています。集落単位での共同作業、ほぼその土地の組合員の集約的な組織になっています。
- 作目別生産者による組織** 農作物の種類ごとに、その生産者が組織する組織です。地域によって違いますが、稲作、野菜、果樹、花き、養蜂、酪農業の作目ごとに部会があり、生産-販売、経理の向上に取り組んでいます。
- 青年、女性による組織** 青年、女性の組織です。農業を担う青年たちで組織するJA青年部会(JA青年部)、農業の担い手としての役割を身に、生活においても多くの役割を果たしている女性たちで組織するJA女性組織です。
- 事業利用者による組織** JAの事業を利用する人たちの交流を目的とした組織です。健康-福祉など生活に関する事業を利用する人を対象にした生活組織のほか、年金友の会、共済友の会等があります。

農どう、大物と地蔵のみらい。

共通コンテンツ 2017年8月号

共通コンテンツ 2017年9月号

知って納得JA
協同組合の力

JAがさまざまな事業を行うのはなぜ?

A 農家が安心して農業に専念できるよう、暮らしの基盤を支えるためです。

日本の農業の大部分は、家族経営で支えられています。農家は、所有する土地や農機具、家族の労働力などを使って農作物を作り、販売して現金収入を得ます。これらの収入の一部を家計に回して生活必需品を購入するほか、貯蓄したり共済に加入したりしています。

JAは、組合員である農家が安心して農業に専念し、農業所得を上げて豊かな暮らしを実現できるように、さまざまな事業を通じて応援しています。これらの事業は組合員以外も利用ができ、地域住民の暮らしを支えています。

このように、JAは組合員や地域住民を総合的に支えることから「総合農協」とも呼ばれます。家族経営を大切にしている日本らしい組織といえます。(監修=広島大学 助教 小林元)

組合員とJAの関わり

教育・広報活動に関わる事業
学習会の開催、広報誌の発行、新聞情報事業、出版・文化事業など

指導事業 技術・経営の指導、セミナー、OSの活動など

信用事業 貯蓄に連関する貯蓄、融資

購買事業 生産資材、生活資材の供給

共済事業 万一に備えるの保障

組合員

農業所得の施設利用、農産物の加工、農産物の加工

利用・加工事業 販売事業

医療・福祉事業、健康増進活動、旅行事業など

その他生活に関わる事業

市場・消費者 農産物の販売

農どう、大物と地蔵のみらい。